

【つきおやじ】

ぼくは月を見るのが大好きです。
春夏秋冬、月は表情を変えますが、それも好きです。

「おつきさまは、かわいそうじゃのう」
あるとき懐爺にいうと、
「どうしてですか」
「いつも、よぞらにいて、たいくつじゃろう」
「どうしてそう思うんですか」
「たいくつで、ひやくめんそう、ばかりしとる」
「百面相ですか」
「どこにも、いけんから、そうするしかありやせん」
「そんなことありませんよ。たまに地上に落っこちます」
「ほんまかのう」
「その証拠に、お月様はときどき欠けているでしょう」

ある夜、気味のわるいおやじが、家の庭に立っていました。
顔が三分の一ほど欠けています。
にこにこ笑っています。

「おまえは、【つきおやじ】かのう」
「ばれたか」
「よなかでも、あかるいかお、しとるから、わかるぞい」
「今日は、朝から、競馬三昧（けいばざんまい）。つきまくって、笑いがとまらん」
「そのつきかい」